

学習指導案に明記した問題発見の4つの方法と授業のタイプ

問題発見の4つの方法

問題発見① 1. 既有経験や既習との「ズレ」
 これまでの経験や学習では説明できない事実・事象と出会う場を設定する。

これまでの見方、考え方との「ズレ」を感じて追究せずにはいられない強い問題意識を生む。

問題発見② 2. 友達との意見の対立・拮抗
 児童生徒の異なる意見を取り上げ、その違いを際立たせる場を設定する。

どちらが正しいのかという問題意識を生む。

問題発見③ 3. 目的達成へ向けての障害克服
 児童生徒が目標へ向かって追究する際、障害にぶつかる。

どのようにしたらその障害を乗り越えられるのかという問題意識を生む。

問題発見④ 4. 素朴な疑問から問題意識への醸成
 「これはどうなっているんだろう？」といった素朴な疑問を、何のどこがわかっていないのかを明らかにする場を設定する。

強い問題意識を醸成していく。

学力向上に対する授業のタイプごとの役割

授業のタイプごとに、獲得する学力が違う。

	教育学的授業類型	獲得するもの	3類型	
鍛える授業	1) 教師主導の講義・実習・習熟型授業	基礎的・基本的な知識・技能	習得型	1型
	2) 教師主導の課題解決学習 (学習課題・追究方法とも教師が) Project Based Learning, ジグソー学習	知識・技能の基本的活用モデル	活用型 <small>(探究型が可能になるまでの過渡的なもの。学び方を習得済の中・高では時間効率化のために採用)</small>	2型
自ら学ぶ授業	3) 児童生徒主体の課題解決学習 (学習課題は教師が) (追究方法は児童生徒が)	問題解決能力 (読解力, 思考力, 判断力, 表現力, 価値観 等)		3型
	4) 問題発見・解決学習 (学習問題, 追究方法とも児童生徒が) Problem Solving Learning, 優れたPBL	問題発見能力 問題解決能力	探究型 (最終形)	4型

T・Cの言語比率でチェックを!

藤村(2008)